

【22_200技術系メルマガ】『目線』と『トレンド』

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

昨日は祝日で国内マーケットは休場だったので、緩い監視という感じでしたが
ロンドン時間に1つエントリーをしたので、事例として紹介します。

▼EURJPY(L) 結果: +29pips▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1548957614536794113?s=20&t=crlIMYdY5-0baS5x-IYaiQ>

『目線』としては、日足/ 40-50SMAの中において、邪魔くさいのが懸念であるのと

H4/ どちらの方向にも空間があるので、目線が少々決めづらい状況。

そのため、H1/ 20SMAに対する反応次第で目線を決める事に。

結果として、H1/20SMAの角度に沿うトレンド方向、前日高値(DH)でのサポート転換、

更にM15足以下のセットアップの1波が上昇だったことを根拠に、ロング目線に固定。

<セットアップは、M15足の上げ1波からプルバック待ち。

浅めのプルバックだったので、M1足の逆三尊にパターン分解。ネックラインブレイク後のタッチで
エントリー。

～～

さて、以前のメール【197】で短期セットアップ(タイミング取り)として考える『MA収縮』
のメカニズムについて解説しました。

今回は、その『セットアップ』を有効に活用するために必要となる

『目線』決めの部分にフォーカスした話をしていきたいと思います。

□
■ 『目線』の基本は、自分の“軸”とする時間足の『トレンド』で決める事

僕は現在、マーケットタイムを跨がない『短期デイトレスタイル』でトレードをしているので軸とする時間足は、昔に比べると少し短くなっています。

ご承知の方も多いと思いますが、『H1足』を軸として、それより上位の時間足の環境を考慮しつつ

M15足以下の『短期足セットアップ』が噛み合う時にトレードをするという要領です。

では、実際どうやって『H1足での目線』を決めているのか？

今日の話のメインはここになります。

結論から言うと、判断の要素は2つ。

1. 『ダウ理論』に沿ったトレンド判断
2. 『20SMA』と現在価格との位置関係(グランビル則)

この2つです。

と言っても「アップ(ダウン)トレンドだからロング(ショート)しかない」という話ではもちろんありません。

上に書いた2つの条件を見たらうで、『H1足の1波』を捉えるための目線を決めていきます。

ここに加えて、H4足以上の環境(邪魔なMA、水平線が無いかなど)を考慮して最終的にトレードするか、しないかを判断していきます。

(この点を詳しく話始めると終わらなくなってしまうので、また別の機会に 笑)

これも、実際のチャートで目線の切り替わりを見てみましょう。

▼事例: GBPUSD H1足▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/chart/2022-07-17.png

こうして見てみると、トレンドの推移とグランビルを並列で観ながら、段階的に目線が変わっていく所だったら、どちらかの『目線』を決めやすい反面

一見ボラがあっても、急騰・急落が起こっている場面では

どうにも手が出しづらい状況になっているのがお分かり頂けるかと思います。

もちろん、手法によっては敢えてそのような場面で攻めるという人もいるでしょうから

あくまで僕のスタイルを軸にして、『H1足の1波を狙う短期デイトレの目線』で一貫させている

という点だけ了解してくださいね。

これを、もう少し大きな時間軸でトレードしたい人は、軸とする時間足をH4足や日足に拡張しても良いです。

それでも、最終的にエントリーのセットアップを短期足まで落とし込んであげることによって

大幅にリスクリワードの良いトレードを行うこともできます。(時間足を上げる程、チャンスは減るのでその点は注意)

このように、一貫して『目線』を固定するルールを決めておくことで、最後のセットアップで「どっちにトレードしようか・・・」

などと迷う事が無くなるし、『一貫している』事によって

勝っても負けてもその結果を『納得して受け入れる』ことができます。

そして、これは大事なので今後も繰り返し伝えていくつもりですが、そもそも『目線』が決まっていなければ

短期の『セットアップ』だけを一生懸命みても、優位性のあるトレードは出来ません。

「どちらかだけ」ではダメで、両輪が機能している状態が重要であると言う事を
忘れないようにして貰えたらと思います。